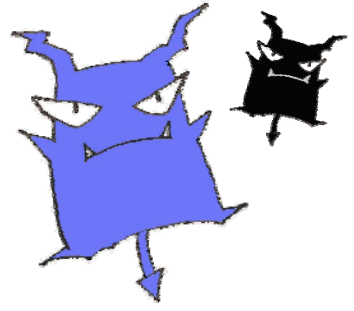


平成19年8月

かんせんしょう

京都市こどもの感染症



★ ☆ これから流行りそうなものは…

< 去年の今頃(8月)の順位 >

順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	かんせんせいいちようえん 感染性胃腸炎	発熱、下痢、嘔吐などが症状。ノロウイルスが有名ですが、その他の色々なウイルスや細菌も原因となり、何回もかかってしまうことがあります。予防のため、手洗いや食品の十分な加熱などを心がけましょう。
2位	ヘルパンギーナ	夏かぜの一種で、高熱とのとにできる水疱(すいほう)が特徴。原因となるウイルスが何種類もあるため、何回もかかってしまうことがあります。予防には手洗い、うがい大切です。
3位	おたふくかぜ りゅうこうせいじかせんえん (流行性耳下腺炎)	耳の下からあごにかけて、おたふくの顔のようにはれて痛み、熱が出ることもあります。3~5歳での感染が多くなっています。けいれんを起こした、熱が下がらない、はれがひかない、強い頭痛や吐き気を伴うなどの症状があるときは、合併症の恐れもありますので、自己判断せず医療機関を受診しましょう。

★ ☆ 注意する感染症！

●●● ヘルパンギーナ (夏かぜの一種)

夏場に多く、本市においても多い状態が続いています！

高熱やのどの痛みにより、食事や水分をとりにくいため、水分補給はこまめに行いましょう。

今年の7月をみると、1歳が最も多く、例年、乳幼児(0~5歳)に多くみられています。

咳やくしゃみだけでなく、ウイルスの付いた手を介しても感染しますので、予防には、手洗い、うがいが欠かせません。普段から免疫力を強化するため、規則正しい生活を心がけるのも大切です。クーラーによる部屋の冷やしすぎにも注意しましょう。

気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょうね~！



★ 腸管出血性大腸菌 0157 にご注意 !!

ちょうかん しゅっけつせい だいちょうきん

ちゅうい



- 腸管出血性大腸菌感染症は、本市でも夏場に多くみられ、激しい腹痛や下痢、血便、発熱、嘔吐などの症状を伴います。乳幼児に多くみられ、お年寄りからの報告もあります。症状があれば、直ちに医療機関に行きましょう！
- 子どもやお年寄りは抵抗力が弱く、溶血性尿毒症症候群(HUS)などの合併症をおこすと、重症化しやすいので、特に注意が必要です。
- 生肉や加熱不十分な肉等を食べたり、患者の便から感染する例が多くみられます。

< 予防法 >

- ・ トイレの後、食事の前には手洗いを十分にしましょう！
- ・ 肉等の食品は、生で食べるのを控え、十分に加熱しましょう！
(中心温度75度1分以上)



発行/京都市保健福祉局
地域医療課、衛生公害研究所
(ホームページにも掲載しています。)